

「ウィザス」は、ウィズアス=with us “共に生きる—男女共生社会”の理念を表しています。

特集

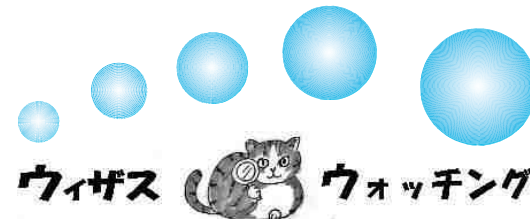
芦屋で活躍する

女性たち



絵 H.M

ウィザス



「第3次ウィザス・プラン改訂」女性活躍が入りました！

平成28年4月1日に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が完全施行されました。本市においても女性が活躍できる環境を整備し充実させることにより、男女が共に仕事と生活の両立ができ、すべての人にとって暮らしやすく、持続可能な社会の実現につなげて行きます。時代に即したかたちで、女性活躍推進に関する施策を推進します。

主な内容について一部（紹介）します。

【女性のための再就労・起業等相談窓口の設置】
女性活躍コーディネーターが再就労・起業等の相談をお受けする常設窓口です。

【女性活躍推進講座やフォーラム等の実施】
キャリアコンサルタントによるセミナーやフォーラムを実施。

セミナーの個別相談会では、ひとりひとりに合ったポイントを提供いたします。

【女性活躍推進会議の設置】
学識者・団体代表、起業家など様々な立場の方で構成され、これからの芦屋市の女性活躍について新たな展望を開いて行きます。

また、芦屋市では現在、第4次ウィザス・プランを策定中です。7月には、男女共同参画、女性活躍、DVのそれぞれに関するテーマを設け、市民の皆さまのご意見をお伺いするワークショップを開催します。是非ご参加いただき、ご意見をお聞かせください。

詳しくは広報6月1日号またはホームページをご覧ください。

「男女共同参画週間記念事業」映画上映会

女性と男性等が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するための「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日が平成11年6月23日であることから、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」と定めています。この週間の趣旨を周知し、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めるために記念事業を開催します。

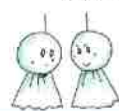
映画「ダブルシフト パパの子育て奮闘記」



(スウェーデン/2004年/89分/字幕)

舞台はスウェーデン第二の都市・イエーテボリ。テレビで天気予報を担当しているエマと、タクシー運転手のヨナスは一緒に暮らしている。二人の間にできた赤ちゃんを、8カ月間、面倒をみていたエマが仕事に復帰。育児をパトタッチされてヨナスは戸惑う。育児休暇を楽しんでいたヨナスは育児を楽しめない。しかし、子どもが言葉でパパ、ヨックに「男の方が育児にむいている」と諭されてもヨナスは育児を楽しめない。しかし、子どもが言葉でパパ、ヨックに「男の方が育児にむいている」と諭されてもヨナスは育児を楽しめない。しかし、子どもが言葉でパパ、ヨックに「男の方が育児にむいている」と諭されてもヨナスは育児を楽しめない。しかし、子どもが言葉で...

- 日 時 平成29年6月24日(土)午後2時半開演(2時開演)
- 会 場 ルナ・ホール(業平町8-24)
- 定 員 先着600人 ※要整理券
- 一時保育 0歳6カ月以上未就学児、先着15人、1人につき300円(要予約)
- 申し込み 往復はがき、下記QRコード、センター窓口で(詳しくはお問い合わせください。)



スマートフォンはこちら 携帯電話はこちら

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3月曜日と火曜日の2時間、ゆっくりと好きな本を読みませんか？

読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

- 日 時 【月曜日】6月19日・7月24日・8月21日
【火曜日】6月20日・7月18日・8月15日
いずれも<午前10時~正午>
- 会 場 男女共同参画センター ウィザスあしや
- 対 象 子育て中の親(祖父母含む)と子ども(2歳以上未就学児)
※2歳未満児の同伴不可
- 一時保育 各回先着4人、お子さん1人につき300円(要予約)
- 申し込み 各月1日から、電話(Tel.38-2023)でセンターへ



編集後記

義母が入院、手術することになりました。手術の同意書などが山のようにあり、家族がサインをすることになります。じゃあ、身内のいない人はどうするの？後見人は医療の同意まではまだカバーしていません、と疑問がムクムクわいてきました。家族のカタチが様々になり、子どものいない家族、独身者などが多くなっていますが、まだまだ夫婦+子ども家族をベースにした社会だと実感。どんな家族でも安心して暮らせるシステムが必要です。(編集委員 浜橋)

ワーク・ライフ・バランス

ステキな先輩たちに続こう！ A.S



秘密厳守 女性相談 面接相談

無料相談・予約専用電話 Tel.38-2022

~ご相談には、予約が必要です~

- 内 容 ①心の悩み相談 ②家事・育児相談
- 日 時 ①第1・2・4金曜日(午前10時~午後4時) ②第1火曜日(午前10時~正午) 第3金曜日(午前11時~午後4時) ※一時保育(無料)(要予約)
- 【法律相談】■6月14日(水)・7月1日(土)・8月2日(水) ■午後2時~4時(1人30分)(要予約)

ウィザス No.89

平成29年6月発行(夏号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5番8号 公光分庁舎・北館1階
TEL: 0797-38-2023 / FAX: 0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開 館: 月曜日~土曜日・午前9時~午後5時30分
■休 館: 日曜日・祝日・年末年始(12月28日~1月4日)

ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/wiwithus/centerwithus.html>



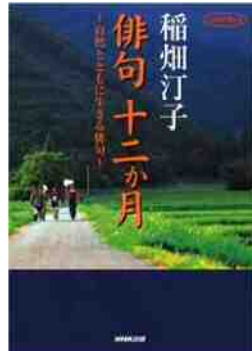
◆特集◆ 芦屋で活躍する女性たち

芦屋ゆかりの女性文化人

【稲畑汀子氏】

俳人高浜虚子の孫で俳誌「ホトギス」名誉主宰の稲畑汀子さんは、芦屋市在住。1994年芦屋市教育委員長に就任。2000年には平田町に虚子記念文学館を開館し館長に就任。

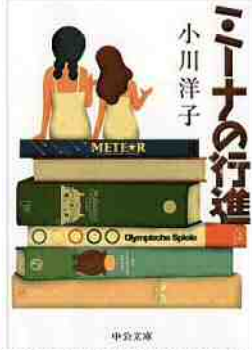
俳句の国際化に取り組むとともに、公益社団法人日本伝統俳句協会の会長として、伝統的な俳句を若者にも親しんでもらおうと、意欲的に活動をしています。



虚子記念文学館外観

【小川洋子氏】

2006年「ミーナの行進」で第42回谷崎潤一郎賞を受賞した作家の小川洋子さんは、当時芦屋市在住でした。「ミーナの行進」は1972年の芦屋市が舞台。図書館の打出分室も出てきます。芦屋市ゆかりの作家、谷崎潤一郎の業績を称えた文学賞を、芦屋市を舞台にした作品で受賞というのも、なにかの縁を感じます。また、2007年からは芥川賞の選考委員を務められています。



【コシノヒロコ氏】

ファッションデザイナーとして活躍しているコシノヒロコさんは、2013年から芦屋市の旧自宅をギャラリーとして一般開放しています。この「KHギャラリー芦屋」では彼女のアート作品を展示しています。

週末には必ず芦屋に戻り、リフレッシュするのだそう。

芦屋の豊かな自然は、コシノヒロコさんの創作活動の源泉だということです。



WORK #1646(2016年 1620×1300)

KHギャラリー芦屋
http://www.kh-gallery.com/ashiya

活躍中の女性にインタビュー

頑張った先に何かを見つけることができる！

芦屋市在住のペーパーアート作家こじやるさんが、ペーパークイリングの仕事始めるきっかけになったのは、お子さんだとか。「アトピー性皮膚炎で体が弱かった長男は一度熱が出ると2〜3か月寝込んでしまい、看病に明け暮れながら『これが永遠に続くかも』と焦燥感にかられていました。そんな時本屋でペーパークイリングの本が目につき、『これを仕事にしよう』とピンとききました」

この仕事のメリットを伺うと、「自分の好きな時間に子どもを見ながらできるし、仕事をしたことで『夢を持つこと』ができました」という答えが。芦屋はママたちが独自のライフスタイルを持っていて、お互いをフラットに受け入れていると感じるそうです。

転機は、スランプがもたらしました。講師の仕事に追われ、自分が作りたい作品を作れなくなった時、一度リセットすることを決意。そんな時、横浜赤レンガ倉庫で開催された第1回 Christmas Art Competition in YOKOHAMAへの出展依頼がありました。自信がなかったそうですが、出展している自分の作品のまわりに人だかりができていく様子を見て感激。結果、人気投票で1位に。アーティストとは無縁だと思っていた自分に自信を持つきっかけになったとか。

自分の感性に従い作品を作っていくこと、年齢や国籍に関係なく作品を好きだと言ってもらえることが自分の「強み」だと感じるそう。「羽ばたきたいと思いつつ躊躇している芦屋の女性の背中を押してあげたい。ママが笑顔でいることが、子どもも笑顔でいられる秘訣ですから」



作品の中には色んな動物、美味しそうなスイーツ、可愛いお花がぎっしり♪

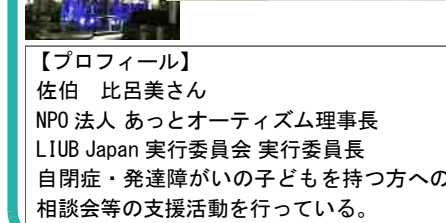
【プロフィール】

こじやるさん
ペーパーアートクリエイターとして世界各地から作品出展依頼を受け、多数の賞を受賞。作品販売等の起業もされている。
芦屋市女性活躍推進会議委員

ライト・イット・アップ・ブルー 青い光で世界をつなぐ

毎年4月2日は、国連が定めた世界自閉症啓発デーで、自閉症啓発のために世界各地でブルーライトアップが実施されています。日本では、芦屋を拠点に活動する「NPO法人あっとオーティズム」が始めたのを皮切りに年を追うごとに全国に広まり、今では日本全国、東京タワーも青く輝きます。理事長の佐伯比呂美さんがこの活動を始めたきっかけは、わが子に発達障がいがあったことでした。「病院や学校の先生など、子どもと関わりの深い方が、発達障がいに対する知識をあまりお持ちでなかったことに驚きました。特徴や感覚の違いを理解してもらうことで、きちんとした学校生活を送らせてあげたい。ひとりひとりの意識へ呼びかける活動なんです」。あまり言葉を発しない息子さんが「タワーをライトアップしよう」と言ってくれたことが活動のエネルギーになっているそう。

芦屋は障がいのある子もいない子も一緒に育っていて、子どもたちは障がいのあるクラスメイトへの配慮が自然にあり、健常児をもつお母さんも、子どもたちのやりとりから気付かされることが多いと言います。活動の大変さについては、「私はできることしかしていません。家族の協力も得ながら楽しんでやる中で、ここまで広まったことにほっとしています。もっとムーブメントが大きくなれば、社会全体で理解が進む、良いサイクルが生まれるかも」と話します。LIGHT IT UP BLUE活動がすべての人に認知され、永続的に繋がっていくことを願いながら、活動を続けていかれるそうです。



【プロフィール】
佐伯 比呂美さん
NPO法人 あっとオーティズム理事長
LIUB Japan 実行委員会 実行委員長
自閉症・発達障がいの子どもの持つ方への相談会等の支援活動を行っている。

「女性の仕事ではない」救急救命士を「女性も目指す仕事」にステップアップ

阪神淡路大震災で被災し、公園で避難生活を続けていた時、自身も被災して大変なのに、裸足の中塚さんに靴を貸してくれた人の優しさ。これが「人の役に立ちたい」仕事を志した原点だそう。どんな職業に就けば人の役に立つのか、と考えている時に会ったのが、救急救命士。要請を受ければ、すぐに救急車に飛び乗って、現場に急行し、ケガや病気の人を病院に搬送します。まる24時間の勤務、火事などの危険と隣り合わせの現場など、「女性がする仕事ではない。大丈夫なの…」とお母さまや友人にも心配されたそうですが、「今は理解してくれています。それは救急医療のスキルを高めて、より多くの人を救おうと努力する姿勢が認められたからかも」と笑顔で話されます。

以前は男性の職場だった芦屋市消防署ですが、女性が3人になり、雰囲気マイルドになったとか。また女性の傷病者にとっても、女性の救急救命士は心強い存在です。「不安な気持ちを少しでも取り除いてあげられたら。どの現場でも、しっかりと患者さんの声を聴くことを大事にしています」

結婚や出産を考えると、この先、この仕事にどう向き合うのが良いのか、まだまだ不安なことがあるのが正直な気持ちだそう。

それでも、おばあさまが住んでおられる愛着のある芦屋で、一步一步、着実に進んでいく中塚さん。中塚さんの歩む道に続く女性救急救命士がさらに増えるといいですね。



共に働く消防士の村江さん（写真右）は「中塚さんがいると場が明るくなるんです。」と話します。

【プロフィール】

中塚 理枝子さん
芦屋市消防署 救急救命士
学生時代は部活動に励む活発な毎日。
趣味は野外音楽フェスに行くこと、特技は体を動かすこと全般

芦屋市女性活躍相談

再就労・起業・地域活動等で活躍したい女性のいろいろな悩みについて、女性活躍コーディネーターがご相談をお受けします。

日時：毎週火曜日午後1時から4時（おひとり50分まで）

※その他日程等応相談

場所：男女共同参画センター

相談員：女性活躍コーディネーター

予約電話：0797-38-2022

・無料。秘密厳守。

・一時保育有り（要予約）

第1回芦屋市女性活躍推進会議を開催



【ご出席された委員の皆さまと山中市長】

平成29年3月22日に「第1回芦屋市女性活躍推進会議」が開催されました。これからもっと女性が輝くにはどうしたら？様々な立場から意見を交換し合い、展望を広げて行きます。

芦屋市は、女性が、そして男性が、その人らしく輝ける社会の実現に向け取り組めます（詳細はホームページをご覧ください）。